

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)
／武田 清

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

科研費申請のテーマと計画を答えることが、「学長の定める重点目標」であるということの趣旨が理解できない。従って、以下の内容が本項目に書くべき内容として適切なのかわからない。
化学的内容のみならず環境やエネルギー問題を学ぶ際、化学熱力学は原理的土台を与える。この意味で、化学熱力学は文理を問わず理解すべき科学的原理である。その意味で、化学熱力学の内容についてより低い学年で年齢化させ、より広めていくことが必要と考える。私は、そのための方策とカリキュラムを開発することを研究テーマとして考えている。

2. 点検・評価

化学熱力学教育をテーマとして科学研究費補助金の申請を行うことができた。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

学長が、「大学院の定員充足が大学の本分とは異なる」ということを理解した上で目標設定しておられること、および定員充足への取り組みを考えるのは、執行部の仕事であることを理解した上で目標としておられるものとして書く。
学長から、受験生の増加に向けて、このようなビジョンでこのような方策を実施する、との見解が出されれば、大学院生の質の確保を重視しつつ、その方策に従う。

2. 点検・評価

学長からは方策についてのアイデアが提案されなかったことから、対応のしようが無かった。この意味で目標の立てようがなかった。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

学部教育においてはより高度な理科内容の習得・定着を目指し、演示実験を通して寄り具体的に内容を見せるよう努力する。また、教養基礎科目「科学と環境」では、具体的内容からより抽象的と思われる内容もあえて避けることなく取り扱うことにより、学生の思考能力を養成することを目標とする。

2. 点検・評価

当初目標はほぼ達成した。教養基礎科目の「科学と環境」は隔年開講で未開講の年度であったため、次年度以降の課題である。

II-2. 研究

1. 目標・計画

従来推進してきた準安定液体の熱力学的および分光学的研究をより深める。学部学生および大学院学生との共同研究を含めて研究を深化させる。具体的には、水素結合性溶液の溶液粘度測定とガラス転移研究を進める。

2. 点検・評価

準安定液体の研究について、国際会議で2件、国内学会で2件の成果発表ができた。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

大学院教務委員としての職責を全うする。

2. 点検・評価

大学院教務委員・FD活動推進委員としての職責を全うした。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

○日本化学会主催の高校化学グランプリに関連して, グランプリの問題解説会を開き, 地域高等学校との連携を図る。さらに, 今年度の化学オリンピック開催に積極的に協力する。
○従来より実施してきたフレンドシップ事業を続けることにより地域の小学校との連携を図る。また, 同関連活動を統合できるよう働きかける。

2. 点検・評価

当初の計画通り, 高校化学グランプリの過去問題解説会, 化学グランプリの開催, 本学フレンドシップ事業の推進に力を尽くした。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

大学教育の本質を高めるべく, 教育実践ならびに専門的研究の推進に貢献した。